**説教20240428ヨハネ21：15-19「主を愛する愛」**

 **皆さん、失恋について、どう感じておられるでしょうか。**

**ここからは暫し、私がして来た失恋体験に基づいて、語ってみようと思いますので、暫しお付き合いください。**

**失恋という事は、主に異性との間で起ることであります。自分が相手に対して愛の告白をして、その愛する愛が、相手に受け入れられなかったとき、拒否された時に、失恋という事が起こります。失恋は、それはそれは悲しい出来事で、何日も、悲しみの涙に暮れるという事に成ります。。それでは、失恋は、悪い出来事でしょうか。決してそうではありません。むしろ良い出来事です。失恋することによって、私は、自分の思い通りにならない事を体験し、自分の意志が打ち砕かれて、謙遜にされて、そして相手の意志や感情を尊重できるようにされます。　という事は、失恋と言う体験は、人生にとって不可欠な、貴重な体験だという事です。そして、最も大切なのは、その失恋体験が、人間だけの愛を超えた、神の愛を知るきっかけになるという事でしょう。私は、幾多の失恋体験を経て、洗礼へと導かれたような気がいたします。**

**さて聖書には、愛と言う言葉で、神様の愛が沢山語られていますが、新約聖書において、愛には主に、アガペーとフィリアという２つのギリシャ語が使い分けられています。アガペーとフィリア、どちらも神の愛を意味しますが、意味合いとしては、アガペーが垂直方向の力ある愛、フィリアと言うのが水平方向の慈しみに満ちた友愛という事になるでしょうか。このアガペーとフィリアという言葉は、是非、覚えて頂いて、自分なりにその意味を体得して頂ければと思います。**

**このアガペーとフィリアは今日の聖書箇所でも、有意義に使い分けられて語られています。この本文を朗読しただけならどの愛がアガペーでどの愛がフィリアなのか分かりませんので、今から、アガペーを愛、フィリアを大切と表現して、読んでみます。**

**１５節から**

**食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを大切にしていることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。**

**二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを大切にしていることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。**

**三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを大切にしているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを大切にしているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを大切にしていることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。**

**このイエスとペトロの会話を注意深く聴きますと、アガペーの愛が語られたのは、３回の内、最初の２回で、イエス様の口から出た２つのアガペーだけです。それ以外の愛は、全てフィリアです。イエス様は３回目には「ヨハネの子シモン、わたしを大切にしているか。」と言われて、アガペーからフィリアへと語句をかえているのです。**

**何故イエス様は３回目は語句をかえたのでしょうか。。先ず最初の二回ではイエスとペトロの会話は、語句がずれています。イエス様は「わたしを愛しているか」と言われているのに対して、ペトロは、「はい、主よ、わたしがあなたを大切にしていることは、あなたがご存じです」と答えて、愛しているかという問いに素直に、愛しているとは、答えていないのです。**

**ペトロにしてみれば、イエス様のアガペーの愛はあまりに、重かったので、フィリアの友愛で答えたのかも知れません。**

**なぜならアガペーの愛と言うのは、友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない（15：13）と言われるほどの、将に垂直方向の重い愛だからです。**

**それでは、イエス様のほうは、このペトロの答えを聞いて、どう思ったかと言うと、それは失恋したと言いますか、或いは少しだけ片思いした感情を持たれたのではないでしょうか。なぜなら、自分が思うほどに、ペトロの思いが強くないのだと感じて。**

**しかし、憐み深いイエス様は、そんなペトロを憐れんで、３回目には自分のほうの言葉をペトロの言葉に合わせて、フィリアと言う言葉を使って、「わたしを大切にしているか」と言われたのでした。ここにイエス様の憐れみがありますが、その憐れみは、イエス様ご自身のペトロに対する失恋の情から発しているのではないでしょうか。**

**イエス様の愛の広さ、長さ、高さ、深さは、人間には知り尽くすことが出来ません。そんな神の愛をお持ちのイエス様が、果たして私たち人間に失恋して、悲しまれるでしょうか、といわれる方がおられるかも知れませんが、一人の人間として地上に来られたイエス様は、失恋して悲しむ人間の心をお持ちだと私は思います。**

**私たち人間とイエス様との会話は、この様に、感情の機微に触れた繊細な言葉のやり取りによって、続けられることでしょう。イエス様は勿論、私たちに、友のために自分の命を捨てる、垂直方向のアガペーの愛を伝えることを使命とされているのですが、伝える相手が、未だそこまではとても無理と言う場合には、この様に相手に譲歩して、フィリアの友愛に寄り添うお方であります。**

**２度あることは３度ある、そして３度あることはずっとあることです。私たちは、この地上を去る時迄、このイエス様への愛の告白を、し続ける歩みを、この地上でしていくことでしょう。それが、イエス様からの愛の内に留まっている私たちが、自ずから歩まされる道行きであります。**

**ペトロはご存知のように、この地上をイエス様と共に歩んでいたときに、人間的に思いを高ぶらせて、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言って、イエス様の前にアガペーの愛を語ろうとしました。（ルカ22）しかし、人間的な思いが如何に高ぶろうが、それははかないことであることを御存じであるイエス様は次の様に答えられました。「ペトロ、言っておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」**

**そして、この後ペトロは実際に、身の危険を感じた時に、我が身を守ろうとして、３度、イエス様のことを知らないと、嘘をついて、自分を守ろうとしたのでした。**

**このペトロの否認も、３度起こりました。そして２度あることは３度ある、そして３度あることはずっとあるのです。私たちは、この地上を去る時迄、このイエス様への否認も、この地上で繰り返し行っていくことでしょう。**

**この様に私たちは誰しも罪人として、この地上を歩んで行くのですが、同時に、イエス様への愛を告白出来る口をも与えられています。私たちは、たとえば、失恋して、悲しんでいる時に、どうすれば、慰められるかと言いますと、何度も何度も、イエス様へ愛の告白をしてみることです。イエス様はあなたの愛の告白を必ず受け入れ、拒否されることは無いのです。それどころか、イエス様は、あなたの愛の告白を、今か今かといつも待ち望んでおられる、憐み深い御方なのです。**

**私たちは、イエス様の広くて、長くて、高くて、深い愛に留まっているばかりでは、かえってその変わらない神の愛が分からなくなって、ペトロの様にイエス様を知らないかのように振る舞ってしまいます。私たちは、いつもイエス様から受けている神の愛にお応えする、愛の告白をし続けることによって、神の愛の力を受け取って、元気にされます。このことは実践することによって、よりよく知られることですので、是非皆さん実践をされますように。**

**さて、イエス様への愛を告白したペトロに対して、イエス様は３回とも「わたしの羊を飼いなさい。」と言われています。これもまた、イエス様が私たちに命じられている、愛の実践であり、その愛とはアガペーであり又フィリアでもあるのです。**

**「わたしの羊を飼いなさい。」という御言葉は、もちろん牧師に与えられている御言葉であります。が、同時にイエス様を信じる信徒一人ひとりにも与えられている御言葉です。では、牧師と信徒さんとの間でどんな違いがあるかと言えば、それも又、アガペーとフィリアの違いから説明できることです。**

**ペトロは一人目の牧師と言ってもよい人物であります。彼が先ず、イエス様によって、召されて、牧師に任命され、イエス様の羊たちを養いなさいと言われたのでした。そしてそのペトロは十字架に架かって、殉教してこの世を去りました。**

**そのことが19節に預言されています。**

**19節**

**ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。**

**そしてペトロに連なる牧師たちも全て、この様に最後は十字架に架かって召天するように召されているのです。ですから、牧師はみんな、最後に十字架に架けられるのを喜びつつ、羊たちの世話をする者として召されているのです。将にイエス様は牧師たちにアガペーの愛を求められているのです。**

**それでは信徒さんが、羊たちの世話をするというのはどういう事でしょうか。信徒と言うのは羊であって羊飼いではないという思いもあるかもしれません。とても殉教して死ぬことは出来ないと思われるかも知れません。しかしそこまで出来なくても、人間は誰しも、イエス様の「私を大切にしているか」という言葉に「はい、あなたを大切にしています」と答えることが出来るフィリアの愛を持つことが出来ます。そしてそれからイエス様は皆に「わたしの羊を飼いなさい。」と命じられるのです。**

**先程、牧師はみんな、最後に十字架に架けられるのを喜びつつ、羊たちの世話をする者として召されていると言いましたが、牧師も人間ですから、死ぬことに怯えることをいっぺんに払拭するのは難しいのです。牧師も、イエス様への愛の告白を繰り返し行うことによって、だんだんと、死への恐怖を払拭していくことが出来ます。そして、イエス様を否認するという罪を逃れることになります。**

**ペトロは、人間的な思いを高ぶらせて、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言って、失敗し、罪を犯しました。私たちは、人間的な思いの高ぶりによって、主イエスを愛することは出来ません。そうではなくて、何度も何度も復活の主イエスに出会わされ、イエス様と感情の機微に触れた繊細な言葉のやり取りを続けることによって、フィリアの愛をそしてアガペーの愛を行う者へと、だんだんと変えられていくのです。**

**私たちは、高ぶることなく、繊細な言葉のやり取りをする日々の営みを、着実に重ねて参りたいと願います。**

**祈り**

**主よ、私たちがあなたから愛され、その愛の内に留まっていますことに感謝し、あなたをほめたたえます。又、憐み深い御子イエスによって、私たちも、あなたを愛することが出来るようにされました。どうか、私たちが、あなたを愛する愛を益々深くすることが**

**出来ますよう導き、祝福して下さい。**

**私たちが、日々、イエス様の御言葉を聞いて、遂には、友のために自分の命を捨てる、アガペーの大きな愛を行うことが出来る者として下さい。**